



日本プライマリ・ケア連合学会
東北ブロック支部 活動報告

発行人：支部長 矢島 恭一（上田診療所）
事務局：〒999-8162
山形県酒田市上野曽根字上中割 73
TEL 0234-27-3306 FAX 0234-27-3308
mail:k-yajima@sea.plala.or.jp

ニュースレター No. 8 (2014. 12)

○日本プライマリ・ケア連合学会東北ブロック支部幹事会報告

日本プライマリ・ケア連合学会 東北ブロック支部幹事会

日 時：平成 26 年 9 月 6 日（土）13 時 00 分から

場 所：秋田大学医学部シミュレーション教育センター

出 席：菅家智史 坂戸慶一郎 坂本和太 長谷川仁志 千葉 大 矢島恭一（敬称略）

欠 席：葛西龍樹 加藤博之 濃沼信夫 長野正裕 星野智祥 本郷道夫 川島孝太郎（敬称略）

1) 挨拶 支部長 矢島 恭一

2) ブロック支部会計報告

3) 支部支援委員会の報告

4) 協議事項

1) 県支部設立について

今年度中の設立が求められているが、全国的に見ても一本化の調整が難しい県が多いと聴いている。

2) 支部活性化資金の配分について

半分程度までは、年 1 回のブロック支部学術集会に助成してよいのではないかと。その他県支部、学会本部で単位を認定されたセミナーなどにも 5 万円程度を限度に助成する。

※下記の「学生・研修医のための家庭医療夏期セミナー in 東北」に 49,000 円の助成を行った。

5) その他

1) 来年の東北ブロック支部第 5 回学術総会について

東北医師会連合学会総会並びに学術大会と同時開催の場合は、以下のとおりを予定している。

日 時 平成 27 年 9 月 26 日（土）～27 日（日）

場 所 福島市（葛西先生担当）

実務担当 菅家智史先生

2) 幹事会役員のメーリングリストの作成

学会本部に作ってもらうようお願いする（既に設置済）

3) 幹事会をWEB会議で開くことは可能か

学会本部に問い合わせたところ可能であるとの回答を得た

○第4回日本プライマリ・ケア連合学会東北ブロック支部学術集会報告

日 時：平成26年9月6日（土）～7日（日）

場 所：秋田大学医学部附属病院 第2病棟2階 多目的室

対 象：地域包括ケアにかかわるすべての医療・福祉関係者

（医師・歯科医師・薬剤師・看護師・保健師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・歯科衛生士・
栄養士・ケアマネージャー・社会福祉士・介護福祉士・ヘルパー・行政・学生）

テーマ 『みんなで進めよう！東北の地域包括ケアを！』

—多職種連携教育 (Interprofessional education) から

職種を超えた連携教育 (Transprofessional education) へ—

東北ブロック支部長：矢島 恭一（医療法人 宏友会上田診療所 所長）

学 術 集 会 長：長谷川 仁志（秋田大学大学院医学系研究科 医学教育学講座 教授）

○「学生・研修医のための家庭医療夏期セミナー in 東北」報告（東北大学 田中 淳一先生）

日 時：平成26年11月15日（土）～16日（日）

場 所：東北大学医学部 6号館

昨年、東北大学では、文部科学省の**未来医療研究人材養成拠点形成事業**として、「コンダクター型総合診療医養成プログラム」が採択された。そこで、東北地方で活躍する総合診療医を養成することを目的として、日本プライマリケア連合学会の後期研修プログラムを持つ医療機関と提携し、事業を進めている。今回、その一環として、将来東北地方で総合診療を志す学生・研修医の交流、またそうした人材を増やすことを目的にして、今回、「学生・研修医のための家庭医療夏期セミナー in 東北」を行った。

内容としては広く学生・研修医が参加できるものとして、学会で行っている「学生・研修医のための家庭医療夏期セミナー」のコンテンツを東北で行うこととした。今年は申し込み開始後、1日経たずして、定員に達した人気のセミナーであり、仙台で行うことで、東北地方の興味ある学生・研修医が集められるのではないかと考えた。また東北支部会、ならびに今年発足した学生研修医部会の東北支部にも共催として参加していただき、広く東北地方に呼びかけることとした。

今回のセミナーは11月15、16日に東北大学医学部で行われ、東北地方を中心として学生13人、研修医6人、他、後期研修医、総合診療医など15人が参加した。

セッションとしては2つ並列するような形で行われ、まず「病院総合医と診療所の家庭医のアプローチの違い」、「東日本大震災に学ぶ複合災害における家庭医の役割」が行われ、受講者は事前に申し込んだセッションにそれぞれ参加した。最初のセッションの講師は期せずして、いずれも東北地区の先生で、南三陸診療所の藤原先生、八戸市立市民病院の千葉先生、かしま病院の石井敦先生に担当していただいた。病院と診療所の立場での違い、またその力を発揮できるシチュエーションについて考えてもらい、一方では震災時の話を現場の医師から聞くことで、体験していない人、体験した人にとって、よい振り返りになったのではないかなと思う。その後は「ようこそ！家庭医のアタマんなか！」、「日本でどんな家庭医が育っているの？第3回家庭医専門医試験を体験する」のセッションを用意した。生物学的視点、心理社会的視点の重要性や、今後、専門医試験を受ける際の疑似体験をしてもらった。また翌日には、「EBMer は医療情報をどう使うか」「外来カンファレンスで

学ぶ診断推論」を行い、医薬品の宣伝文言に関して、正しく判断できるような内容を学んでもらい、一方ではドクターG形式で研修医に診断を考えてもらうような形式で行われた。

他、1日目の最後に当部の石井正教授から東北大学の地域医療に対する取り組みを紹介し、「コンダクター型総合診療医養成プログラム」や東北大学地域医療復興センターの内容などを説明した。

また、学生研修医部会・東北支部による「後期研修プログラムの紹介」も行われた。休憩中の時間を利用して、参加者の多くがパンフレットなどを手に取り、見て回っていた。

また1日目の夜は懇親会ということで40人以上の方に参加していただき、盛大に行われて、講師の多くも参加し、学生・研修医にとってロールモデルを見つけ出し、また学生・研修医間同士の交流も深まったようである。東北地方の範囲が広大であり、なかなか県境を越えた交流は難しいが、このような東北地方全域の企画で集まることで、交流を深めることは非常に重要なのではないかと思う。

終了後のアンケートでは満足度は高く、今後もセミナーの継続を希望しており、今後も何らかの形で、学生・研修医の動きに対して、協力できればと考えている。